

東河地区 まちづくり計画



平成31年3月

東河地区協議会

は 「山並み映ゆる 交流文化の里—東河」

～豊かな自然に囲まれた居住・交流文化の田園都市～東河地域をつくる

平成の時代も間もなく終わろうとしています。昭和の「激動の時代」から、平成の「大災害の時代」を経て、新たな時代の始まりです。

その間、東河地区は時代の波に翻弄されつつも、東河地区協議会を核として、次代に夢をつなぐ「まちづくり」を進めてきました。先人のご努力の結果、農地の集約化・道路の整備・住宅団地の開発・河川及び里山の整備・教育環境の充実等、他の地域に先駆けた取り組みが多く進められました。

しかし、まだまだ課題は山積しています。それらの課題を解決するべく、「第二次東河地区まちづくり計画」を策定することにしました。

この計画は、2028年までの向こう10年間の進むべき方向を示しましたものです、

前計画の骨子を引き継ぎながら、新たな視点から様々な分野での各種施策や事業の推進を図る計画としています。

この計画は、15歳以上の地区民の皆様アンケートを実施させて頂くとともに、まちづくり計画検討委員会などで多くのご意見ご提言を頂き、高齢化社会、IT革命などの社会の進展に対応した計画づくりを目指してまいりました。

今後10年間のまちづくりのテーマとして「交流」を掲げ、「自然との共生」「人口の増加」「人の環づくり」を目指します。また、地区民の価値観の多様性に配慮しつつ、地域の特性、独自性を活かし、魅力あるふるさと東河を活性化させる計画内容としています。

東河地区協議会としても、この計画の推進には全力で取り組んで行く事にしていますので、地区民の皆様方には、変わらぬご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本計画策定に当たりご尽力いただきました、東河地区まちづくり計画策定検討委員会の皆様、アンケート調査にご協力いただきました地区民の皆様にご心から感謝申し上げ、ご挨拶いたします。

平成31年3月

東河地区協議会
会長 新宮 郁朗

《 東河地区まちづくり計画目次 》

1 序 章	P.03
(1) 計画策定の趣旨	P.04
(2) 東河地区の概況	P.04
① 人口の状況	P.04
② 東河小学校の児童数	P.05
③ 東河地区ハザード地域	P.06
④ 東河地区の公共施設	P.08
⑤ 東河地区の文化財	P.08
⑥ 地区内の産業	P.10
⑦ まちづくり活動の状況	P.10
(3) 東河地区の意識調査(アンケート調査)	P.11
2 基本構想	P.12
(1) 将来像	P.13
(2) 重点プロジェクト	P.13
① 夜久野高原プロジェクト事業	P.13
② 安心安全のまちづくり事業	P.14
③ 壱岐市との交流事業	P.14
④ 地域内交流事業	P.15
(3) 計画実施のために	P.15
① 地区民によるまちづくり	P.15
② 朝来市との連携強化	P.15

3 基本計画	P.16
(1)安心安全の花いっぱいの里	P.17
① 安心安全の里づくり	P.17
A 道路の整備	P.17
B 河川等の改修	P.18
C 急傾斜崩壊対策事業	P.18
D 治山・砂防事業	P.18
E 二次避難所の整備	P.18
F 東河小学校・東河子ども園の整備	P.18
② 花いっぱいの里づくり	P.19
(2)資源・自然を活かして活力ある里	P.19
① 弥生が丘団地の環境整備	P.20
② 夜久野高原開発	P.20
③ 白井大町藤公園	P.21
④ いきいき農業・いきいき生きもの	P.21
(3)歴史・文化を大切にしたり	P.22
① 小山弥兵衛・心諒尼に学ぶ	P.22
② 古墳・神社・寺院・石仏など文化財の保全と歴史遺産の発掘	P.22
(4)地域間・世代間を越えた大交流の里	P.23
① 地域間・世代間交流の推進	P.23
② 壱岐市との交流促進	P.24
③ 地域を支えるビーグル組織の充実	P.24
資料編	P.25
あ と が き	

01 序 章

(1) 計画策定の趣旨

「東河地区まちづくり計画」は、当地域のまちづくりの中長期の目標を定めたもので、最上位の計画です。まちづくり計画は、多くの方の参加のもと、地域の課題を抽出し、あるべき方針を定めて、地域の目標や事業行程を取りまとめたものです。

前東河まちづくり計画は、「アンケート調査」「まちづくり委員会の設置」等を実施し、平成20年12月に策定されました。策定から10年が経過して、この間、社会情勢、地区の状況等の変化が見られます。これらの動向をしっかりと把握し、10年後の将来像を明確に示すことで、笑顔と活気にあふれる東河地区を目指すことを目的としています。

計画策定には、前回と同様に地区民の意向を反映するため、中学生以上の全住民による「アンケート調査」、地域の住民代表で構成する「まちづくり計画検討委員会」の設置を行い、概ね10年後を見据えた基本構想、概ね5年後を見据えた基本計画からなる計画策定を行います。

(2) 東河地区の概況

①人口の状況

平成30年3月末現在	東河地区	和田山町	朝来市
昭和40年	1,401	16,838	43,637
昭和50年	1,301	16,163	37,763
昭和60年	1,281	16,948	37,149
平成7年	1,254	17,160	36,766
平成17年	1,623	17,175	35,479
平成27年	1,649	16,235	31,668
平成30年	1,651	15,767	30,848
昭和40年/平成30年	118%	94%	71%
平成30年/平成7年	132%	92%	84%
平成30年/平成17年	102%	92%	87%

当地区の人口は、平成7年の1,254人を底として、その後増加に転じ、平成30年3月現在では、1,651人の方がお住まいになっています。

平成7年との比較では約32%の増加、合併時の平成17年との比較においても2%の増加となっています。

他の朝来市内の小学校区は、いずれの地区も減少しており、平成7年との比較では、和田山町全体で8%の減少、朝来市全体では16%減少しています。合併時との比較でも、和田山町全体は8%の減少、朝来市全体では13%の減少となっています。いずれも人口減少傾向が顕著となっています。

当地区の人口増加の大きな要因は、平成10年から弥生が丘団地の分譲が始まり、急激に人口が増加に転じ、その後も地区内にミニ住宅団地開発が進み、人口増加傾向を保っています。本市は、いずれの地域も減少傾向であることと比較して大きな違いがみられます。

さらに、朝来市の予測によれば、今後もわずかながら人口増加が見込まれており、高齢化も緩やかな上昇となっています。

今後の課題

地区内の西側地域では人口が増加傾向ですが、東河小学校から東側の地域では減少傾向が続いています。東河小学校から東側の人口減少対策が必要となっています。

*集落別人口・世帯数は別欄資料参照

*東河地区の人口構成・高齢化予測は別欄資料参照

②東河小学校の児童数

平成30年5月1日現在	東河小学校	和田山町全	朝来市全
平成7年	87人	1,317人	2,689人
平成17年	119人	1,029人	2,092人
平成30年	122人	828人	1,483人
平成30年/平成7年	140%	63%	55%
平成30年/平成17年	103%	80%	71%

東河小学校の児童数は、平成7年で87人であり、平成17年には119人、平成30年は122人と、平成7年比較で40%と増加傾向にあります。

この主な要因は、東河地区内で大規模又は小規模な住宅団地開発が進み、人口が増加したことが大きな要因です。

児童数は、東河地区は増加傾向ですが、和田山町全体、朝来市全体でみると、平成7年の約23年前と比較すると、概ね40%前後の減となっており、朝来市の児童数の減少対策が大きな課題となっていることが伺えます。

東河小学校児童数の増加については、直接的には住宅団地の造成ですが、古くから当地域で実施されているふるさと教育・地域内交流が、地区外の人々に評価されたものと考えられます。



東河小学校



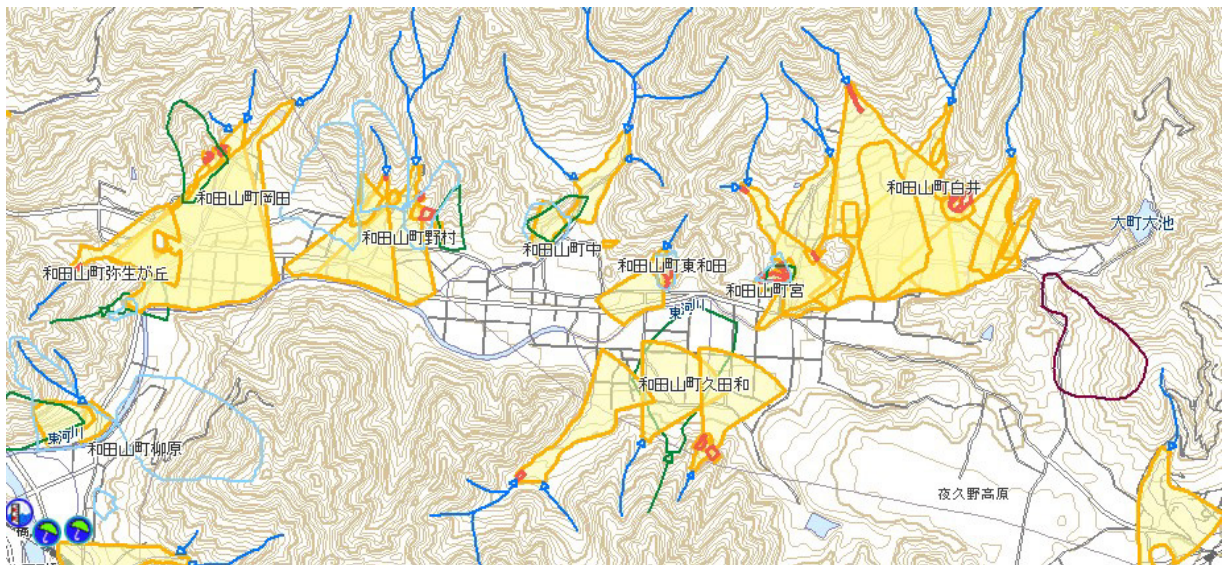
せんだんの木

東河小学校児童数の課題

児童数増加の地区は主に弥生が丘ですが、他の地区にも児童数の増加を図ることが課題となっています。

③東河地区ハザード地域

●土砂災害ハザードマップ



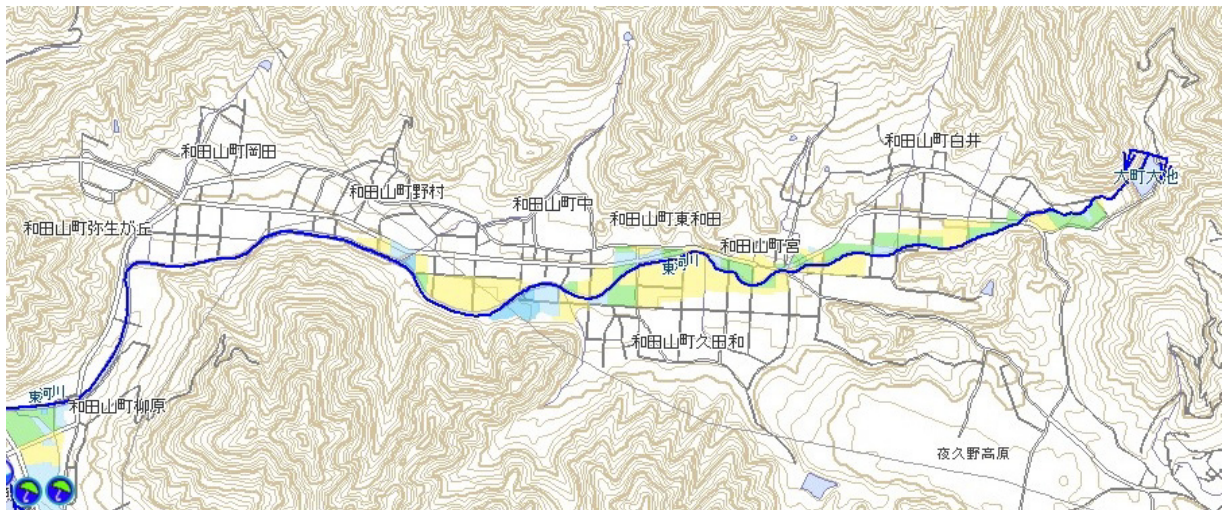
 急傾斜地崩壊危険箇所
 土砂災害警戒区域
 地すべり危険箇所
 山腹崩壊危険区域
➤ 崩壊土砂流出危険区域

朝来市によるハザードマップでは、急傾斜地崩壊区域、地滑り区域、土石流区域の指定があり、特に危険な特別警戒区域の指定が、急傾斜崩壊地域で5か所、土石流区域で5か所指定されています。

●指定箇所

急傾斜崩壊区域	宮1箇所	久田和1箇所	東和田1箇所
	野村1箇所	岡田1箇所	
土石流区域	白井1箇所	宮1箇所	久田和1箇所
	野村1箇所	弥生が丘2区1箇所	

●水害マップ



区域： 0～0.5m未満 0.5～1.0m未満 1.0～2.0m未満 2.0～3.0m未満

東河地区内は、地区内を東西に流れている一級河川東河川を本流とし、砂防河川が地区内に多く位置しています。

●砂防河川一覧

白井	宮	久田和	中	野村	岡田
勘定川 高谷川 西谷川	才川	タタキ川 直谷川	矢治川	野村川 矢治川	岡田川

●避難所

1次避難所	各地区公民館	9箇所
2次避難所	東河地区市民会館・東河小学校	2箇所

今後の課題

急傾斜崩壊区域・土石流区域・地滑り区域が多く指定されていて、防災工事が実施されていない箇所の整備が必要となっています。

また、東河川の河川改修が完了していない箇所があります。砂防河川も、未整備区間があり、対策が必要となっています。

2次避難所に指定されている東河地区市民会館は、エレベーター・障害者用トイレが未設置で、早急に改善する必要があります。

④東河地区の公共施設

●建物

建築物としては、東河小学校、東河こども園、東河地区市民会館が設置されています。



東河地区市民会館



東河こども園

●道路

地区内の県道は、金浦和田山線・岡田林垣線の2路線と、市道は主なものとして岡田東和田線・白井山東線など、多くの路線を有しています。

今後の課題

建築物は、防災機能が不十分なもの、バリアフリー化となっていないものを有しています。
道路は、未整備区間、老朽橋等が多くあり、今後の対策が望まれます。

⑤東河地区の文化財

東河地区は歴史が古く、多くの文化財を有しています。特に、県指定文化財、市指定文化財が、岡田の法宝寺、宮の円明寺に集中しています。

指定文化財ではないが、多くの寺社・古墳・石仏等、貴重な文化財が地区内には存在しています。

県指定文化財	宮	円明寺	庭園
	岡田	法宝寺	石造宝篋印塔
	岡田	法宝寺	木造薬師如来坐像
	弥生が丘		小丸山古墳



円明寺 庭園



法宝寺 宝篋印塔

市指定文化財	宮	円明寺	大愚宗築墨蹟
	宮	円明寺	和田上道日記
	宮	円明寺	石造延命地藏菩薩坐像
	宮	石部神社	神楽
	宮		おかげ燈籠
	久田和		久田和1号墳
	野村	水月院	小山弥兵衛・全鏡関係書類等
	岡田	法宝寺	金剛界礼賛版木
	岡田	法宝寺	豊臣秀吉制札
	岡田	法宝寺	金剛力士立像
	岡田	法宝寺	法宝寺のくすのき



円明寺 和田上道日記



円明寺 石造延命地藏菩薩坐像

今後の課題

文化財の保全と観光資源としての活用が望まれます。指定以外の文化財は、市指定文化財登録を目指します。

⑥地区内の産業

東河地区は農業が主な産業となっています。農産物は、米、ブドウ、黒まめ、岩津ネギなどが生産されています。畜産・養鶏では、肥育牛、鶏ブロイラーが生産されています。観光面では、大町藤公園が毎年5万人を超える観光客を集めています。



「こうのとりのと」米袋

今後の課題

耕作放棄地の対策として大規模農業後継者、農業法人の育成が望まれます。

夜久野高原開発が、事業化されていますが、農業生産の効率化及び観光面に配慮した事業が期待されています。また、東河地域からのアクセス道路、水道施設等のインフラ整備が、将来を見据えて先行整備が望まれます。

⑦まちづくり活動の状況

東河地区は現在さまざまな活動が行われています。活動主体、活動内容により下記の通り分類されます。

●東河地区協議会

東河地区地域づくり支援事業の実施(ハード面)

「かわらばん」(広報紙)の発行(毎月)

ウル東河わくわくツアー(隔年)

東河わくわくチャレンジ教室

防犯灯の管理(岡田～柳原間)

「どうやまの里」管理事業

区長会関連事業

地区内各事業の調整



市との交渉

●東河地区地域間交流

ふれあいグラウンドゴルフ大会

東河地区親善ソフトボール大会

東河地区運動会

ふれあい交流会(高齢者のつどい)

東河地区文化祭

新春ふれあいピンポン大会



ふれあい交流会

●地区外交流

東河小学校と壱岐市立箱崎小学校との交流事業

壱岐市虹いろ商工祭・わだやま食文化祭交流事業

●環境美化活動

「クリーン但馬10万人大作戦」への参加

各区ミニクリーン作戦の実施

花街道づくり活動

不法投棄防止活動



花街道づくり

●安心安全の活動

地区内の防災訓練活動(朝来市一斉避難訓練)

消防団による防火啓発活動(毎月1・15日)

「東河みまもり隊」による安心安全な登下校指導

防災に係る各種要望活動

社協委員・民生委員との連携した高齢者対策活動(ちょボラ)



東河みまもり隊

(3) 東河地区の意識調査

①アンケート調査

アンケート調査(別紙資料参照)を実施しました。

東河地区内の中学3年生以上の全住民を対象として、9月1日付けで配布しました。回収は、9月月末であり約65%の回収率でした。

②調査の結果

*調査結果・考察は別欄資料参照

[illegible]

まちづくり計画アンケート

② 基本構想

基本構想は、2019年から2028年までの10年間の、当地域のまちづくりの基本的な計画をまとめたものとします。また、本構想では、東河地区の将来像と重点プロジェクトを述べ、この計画を実現するための地区民等の役割を述べています。

(1) 将来像

2019年から10年間、安心安全で豊かで夢と希望ある東河地域を築いていく将来像を

は
「山並み映ゆる 交流文化の里—東河」
—豊かな自然に囲まれた居住・交流文化の田園都市—東河地域をつくる—

と設定します。

将来像は、前計画では「自然の恵みを活かして、笑顔あふれるまちへ」でしたが、さらに前計画の自然の豊かさを強調するとともに、まちづくりの方向性を具体的かつ明確にしました。

「山並み映ゆる」とは、東河地区の豊かな自然・景観を見事に表現している東河小学校校歌のワンフレーズで、地区民には親しみが 있습니다。

東河地域の夜久野高原から昇る朝日と、朝日に照らされ輝く周辺の山々の景観を将来に亘り残していくことを目指します。

「交流文化の里」とは、東河地区のまちづくりで、これまで進めてきた地区間の交流、世代間の交流を引き続き推進するとともに、歴史・文化に基づいた他地域との交流を一層進めることを目標としています。今後まちづくりは、『交流』をキーワードとした基本方針を設定することとします。

これらを「交流文化構想」と位置付け、本地域のふるさと教育の推進、地域の人口対策の強化、地域経済の活性化を積極的に進めていきます。

(2) 重点プロジェクト

将来像を実現するために、4つの重点プロジェクトを設定しました。

① 夜久野高原プロジェクト事業

夜久野高原開発は、東河地区の長年の夢の事業でしたが、平成34年度を完成目標に事業化が図られています。

未整備の条件の悪い耕作地から、農道・灌漑水路・畑地整備を行い、農作業の集約化を図り、農業生産の効率化・高収入化による、農業経営の安定化を推進します。

また、独特の景観を活かした観光地づくりを進めるため、インフラ投資の促進、観光施設の整備、観光資源の保全等を進めます。



夜久野高原イメージ①



夜久野高原イメージ②

②安心安全のまちづくり事業

東河地区は比較的災害が少ない地域ですが、地区内に養父断層が横断しており、また、急傾斜崩壊地域等危険個所が多数存在しています。従って、平素から防災活動・減災対策を進めます。

特に、ハザードマップで特別警戒区域に指定している地域の、早期の整備に努めます。

2次避難所の東河地区市民会館にエレベーター・障害者用トイレの早期設置を図ります。

③壱岐市との交流事業

歴史の史実に基づいた「小山弥兵衛・心諒尼」物語を後世に引き継ぎ、壱岐市との交流事業を積極的に進め、ふるさと教育・特色ある地域活動を推進し、地域の活性化に努めます。

東河小学校・箱崎小学校の相互交流事業は、財源確保に尽力し、持続性のある事業としていきます。

地区民と壱岐市民との交流は、引き続き支援していきます。



東河小学校5年生 壱岐島訪問



箱崎小学校5年生 東河訪問

④地域内交流事業

伝統ある地域内交流事業である、ソフトボール大会・運動会・グラウンドゴルフ大会・ピンポン大会・文化祭等を今後も実施していきます。

新たな事業として、わくわくツアー・わくわくチャレンジ教室・ふれあいサロン等新規の事業も継続し、交流の場の創出を一層推進します。

地区内交流事業は、東河地区協議会・各区役員と連携し、それぞれの役割分担を明確にし、永続性がある事業とします。



東河地区運動会



東河地区文化祭

(3)計画実現のために

①地区民によるまちづくり

この計画は、地区民の願いを具現化し、その実現の方向を示したものです。目標の実現には、地区民の総力を結集することにより、可能となるものです。

そのためには、本計画を地区民で練り直し、具体化の道筋を示していくことが、市民参加のまちづくりであると考えます。

このような観点から、協議会は、地区民がまちづくりへの参画機会を創り出すとともに、自主的に行っている活動を適切かつ積極的に支援していくことが大切であるとも考えます。

さらに、地区民は、協議会事業に主体的・積極的に参画していくことが肝要です。

②朝来市との連携強化

この構想を実現していくためには、朝来市との連携を強化し、相互協力関係を深化していくことが必要となります。

一方、朝来市とは対等な立場で意見を交わし、市の事業には積極的に協力していくことも大切です。

また、関係機関との情報共有に努め、計画実現に向かって各種要望等の活動を積極的に行い、各種補助制度の導入に努めることが、本構想の実現には不可欠です。

③ 基本計画

2019年から概ね5年間の、東河地域の事業を示し、地域住民には内容を広く周知するとともに、その内容の具体化、推進組織づくりを進めるものとします。

計画項目として、「安心安全の花いっぱいの里」「資源・自然を活かした活力ある里」「歴史・文化を大切にする里」「地域間・世代間を越えた大交流の里」を揚げ、その内容は次のとおりとします。

(1)「安心安全の花いっぱいの里」

①安心安全の里づくり

近年の地球温暖化、地震の多発により、暮らしの場の安全に対する意識が高まっています。地区民の安全を守るため、災害対策の推進、防災意識の向上を進めます。

また、道路・橋梁の長寿命化対策、未整備区間の早期改修、交通安全施設の整備が必要となっています。河川・水路の未改修区間の解消に努め、水害等の災害から地域を守ります。

さらには、土石流、急傾斜地崩壊による生命・財産を守るため、治山・砂防事業等の事業化を推進していきます。

アクションプログラム(活動計画)

A 道路の整備

県道関係

- ・金浦和田山線宮から夜久野高原までバイパス工事又は現道拡幅
- ・センターライン等の修繕
- ・弥生が丘植栽帯の維持管理の改善

市道関係

- ・夜久野高原の幹線道路整備
- ・白井夜久野北側線の道路整備
- ・宮石部神社線の道路改良
- ・野村中央線の改修
- ・室尾岡田線の整備



センターライン等の修繕



白井夜久野北側線の道路整備

B 河川等改修

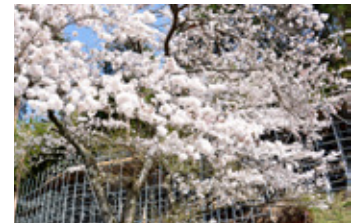
- | | |
|---------|-----------------|
| 東河川河川改修 | ・宮から中の区間 |
| 砂防河川改修 | ・矢治川 ・タタキ川 ・勘定川 |
| 普通河川整備 | ・東和田水路の整備 |
| | ・野村下地水路の整備 |



東河川

**C 急傾斜崩壊対策事業
事業化箇所**

- ・白井中斜面
- ・宮中央部斜面
- ・久田和上久田和斜面
- ・東和田東斜面
- ・野村谷地斜面
- ・野村西山斜面
- ・岡田西山斜面



野村西山

**D 治山・砂防事業
事業化箇所**

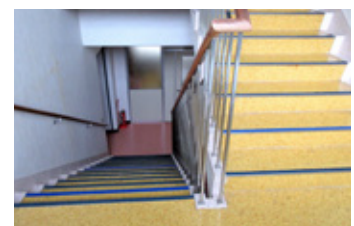
- ・白井 勘定川
- ・白井 高谷川
- ・白井大町ダム周辺整備
- ・宮 才川
- ・野村西山水路
- ・岡田室山水路
- ・弥生が丘2区 大盛山水路
- ・弥生が丘2区 西側山地



弥生が丘2区 大盛山水路

**E 二次避難所の整備
東河地区市民会館**

- ・エレベーターの設置
- ・障害者トイレの設置
- ・避難者用機材の備蓄



東河地区市民会館階段

F 東河小学校・東河子ども園の整備

東河小学校・東河子ども園の安心安全な教育環境を確保するため、
下記の事業を朝来市に要望し、早期の整備を目指します。

- | | |
|---------|----------------|
| ●東河子ども園 | ・駐車場整備 |
| ●東河小学校 | ・児童数増加に対する施設整備 |
| | ・校舎2階の非常階段の設置 |
| | ・特別教室等の冷房対策 |



駐車場予定地

②花いっぱいの里づくり

本地域は周囲が山に囲まれ、山裾は農地が広がる緑豊かな、美しい景観を有しています。

本地区の東には夜久野高原が広がり、緑の空間の中で台地は波打ち、深い霧に包まれることが多く、独特の異空間をなしています。

素晴らしい景観を保全していくとともに、観光資源としての活用を図っていきます。

また、地区内の花づくり活動、清掃活動を支援し、地区民や訪れた方が笑顔になる美しい景観づくりを目指します。



宮区の植栽

アクションプログラム(活動計画)

- A 花いっぱい活動の推進ため、地区内の道路等の植栽を推進し、景観向上に努めます。
- B 大町藤公園のふじの木の保全に努めるとともに、オールシーズン花が楽しめる公園化に努めます。
- C 独特な夜久野高原の自然林などの景観を保全するとともに、高木の植栽、景観植物の育成を図ります。
- D 河川の草刈り、農道等の維持管理を行い、安全な環境づくりを進めます。
- E 弥生が丘団地内に児童公園の設置に努めます。(2箇所程度)

(2)「資源・自然を活かして活力ある里」

東河地区は、東は夜久野高原が広がり、夜久野高原に続く山並みが周辺部を形成し、豊かな自然と美しい景観が織り成しています。地区の中心部に東河川が東から西に向けて流れ、その周辺部には農地が広がっています。

また、本市中心部から2kmから6km圏であり交通の利便性がよく、生活環境にも恵まれています。恵まれた地域特性を活かした下記の活動を推進していきます。

①弥生が丘団地の環境整備

弥生が丘の分譲地の販売促進に協力するとともに、児童公園等の遊び場の確保、業務用地を利用した墓地公園の整備を推進します。

アクションプログラム(活動計画)

- A 児童公園の整備(2箇所)
- B 墓地公園の整備(スーパーロット区画)
- C 未販売用地の販売促進



児童公園



墓地公園の整備

②夜久野高原開発

独特な夜久野高原の景観を保全し、社会資本整備を進め、観光事業の拠点地区として整備します。地区内道路・アクセス道路・ライフラインなどの整備を推進します。また、独特の景観を活かした観光拠点整備の推進、宿泊施設、温泉施設等の整備に努めます。

また、ビュースポットの開発に努め、四季を通じた来訪者の増加を目指します。



ラウンドアバウト

アクションプログラム(活動計画)

- A 県営畑地整備事業の推進
- B 東河地区からのアクセス道路整備
- C 夜久野高原内の道路整備(道路植栽を含む)
- D 観光用施設の整備(展望台・トイレ・休憩所・駐車場等)
- E 田倉山登山道の整備
- F 市有地の適正管理

③白井大町藤公園

大町藤公園の事業推進に協力し、多くの来訪者が満足できる公園を目指し、地域と連携を図り、施設設備の維持管理に努めます。

また、不足している駐車場・公衆トイレ等の施設整備を進めます。

さらに、公園までのアクセス道路の点検を進め、安全確保に努めます。

更に、観光客が満足できるサービスを追求し、リピーターが増加する公園を目指します。



白井大町藤公園

アクションプログラム(活動計画)

- A 周辺の道路整備(道路植栽を含む)
- B 大型駐車場整備
- C 公衆用トイレの増設(下水道との接続・上水道施設の増強)
- D 休憩所の適正管理及び増改築の検討

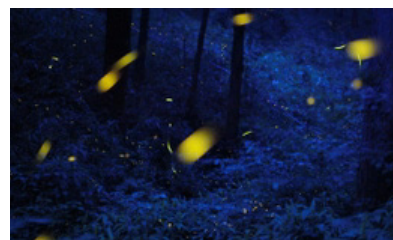
④いきいき農業・いきいき生きもの

本地区の主要産業である農業の活性化に努めます。また、耕作放棄地の防止、後継者不足の解消を目指し、農業法人等への集約化を推進します。

夜久野高原開発を推進し、ねぎ、黒豆、ジャガイモなどの特産品の生産額の増加を目指します。

地区内に生息する貴重な生物の、保護を努めます。特に、モリアオガエル、ヒメボタルは貴重であり生息環境の保護を図ります。

さらに、ヒメボタルは東河小学校児童対象の鑑賞会を開催し、貴重な生物とのふれあいの場を設け、自然保護の大切さ、郷土愛の醸成を図ります。



ヒメボタル

アクションプログラム(活動計画)

- A 大規模農業法人の育成・活性化
- B 黒豆等の生産性・効率性を高め儲かる農業の推進
- C モリアオガエル・ヒメボタル等の貴少生物の生息地の保護
- D 東河川の健全な環境保全
- E 特色ある生物の児童向け研修活動の推進

(3)「歴史・文化を大切にした里」

東河地区は古い歴史があり、地区内各所に歴史遺産・文化財が点在しています。これらの文化遺産を大切に守るとともに、これらの有効活用について下記の事業を推進します。

①小山弥兵衛・心諒尼に学ぶ

江戸時代に起こった元文一揆で壱岐の島に遠島になった小山弥兵衛とその孫娘心諒尼の史実に基づいた足跡が縁で、東河小学校と箱崎小学校の交流が始まりました。3年前からは、両小学校を相互訪問し、それぞれの歴史、史跡、文化、自然を学んでいます。これらの活動を通して、ふるさと教育の推進、異なる文化に触れることで、自立した視野の広い子どもを育てます。



心諒尼肖像画

アクションプログラム(活動計画)

- A 東河小学校児童の壱岐市への派遣事業の推進
- B 壱岐市箱崎小学校の児童来訪時の歓迎セレモニーの実施
- C 小山弥兵衛・心諒尼に関わる史跡の保全
- D 文化祭等で、壱岐市交流事業の報告会開催
- E 市内小学校に小山弥兵衛・心諒尼の功績を広げる事業推進

②古墳・神社・寺院・石仏など文化財の保全と歴史遺産の発掘

県指定文化財・市指定文化財の保全を進めるとともに、観光資源としての活用を検討します。また、新たに東河地区内の文化財を発掘し、朝来市文化財指定を目指します。宮神楽や、各区の祭礼・風習など東河地区独特の無形文化保護に努めます。



宮神楽

アクションプログラム(活動計画)

- A 地区内の文化財パンフレットの作成の推進
- B 文化財指定に向けた活動 岡田古墳群、小山弥兵衛・心諒尼墓地、上道家墓地、奥宮神社、法宝寺仏像群、円明寺観音像、石部神社、など
- C 東河七城、夜久野合戦の史跡(内藤孫四郎碑)等の調査・保全
- D 夜久野88石仏・道祖神・道標等の保全と、観光資源化の推進

(4)「地域間・世代間を越えた大交流の里」

東河地区は、古くから地区協議会が設立され、地域挙げての交流活動が活発でした。協議会設立から概ね60年を向かえ、その活動も地域の大きな行事として定着しています。

今後も、地区協議会を中心として、地域間、世代間を越えた大交流を推進します。

①地域間・世代間交流の推進

古くから協議会が設立され、地域間・世代間交流が活発でしたが、引き続き交流を深化し、新たに観光をコンセプトとした交流事業を推進していきます。



ふれあいサロン

アクションプログラム(活動計画)

- A 東河地区協議会主催の交流事業の継続
グラウンドゴルフ大会、ソフトボール大会、地区運動会、文化祭、
ふれあいサロン、新春ふれあいピンポン大会、わくわくツアー
- B 夜久野高原、大町藤公園等の施設整備と観光事業の活性化
- C 地区内諸団体と連携し、各種交流の活性化に向けた支援



ソフトボール大会



わくわくツアー

② 壱岐市との交流促進

小山弥兵衛・心諒尼を縁として壱岐市との交流が始まりました。現在は、本市と壱岐市は友好都市であり、今後ますます交流が活発化することが期待されます。

本地区も、これまでの事業の継続化を図り、地域のシンボル事業として、持続できる推進体制を構築します。



虹いろ商工祭り

アクションプログラム(活動計画)

- A 東河小学校児童と箱崎小学校児童の交流促進
- B 東河地区民と壱岐市民の交流促進
- C 小山弥兵衛・心諒尼に関するモニュメントの建設の検討
- D 特産物の販売を通じた、地区民と壱岐市民との交流の推進

③ 地域を支えるビーグル組織の充実

地域の事業を支えるビーグル組織である東河地区協議会を、地域一体となり支えあうことが大切です。協議会組織の運営に関し、各種団体はもとより、地区民一人ひとりが各事業に参画するとともに、持続できる体制づくりに協力することが重要です。



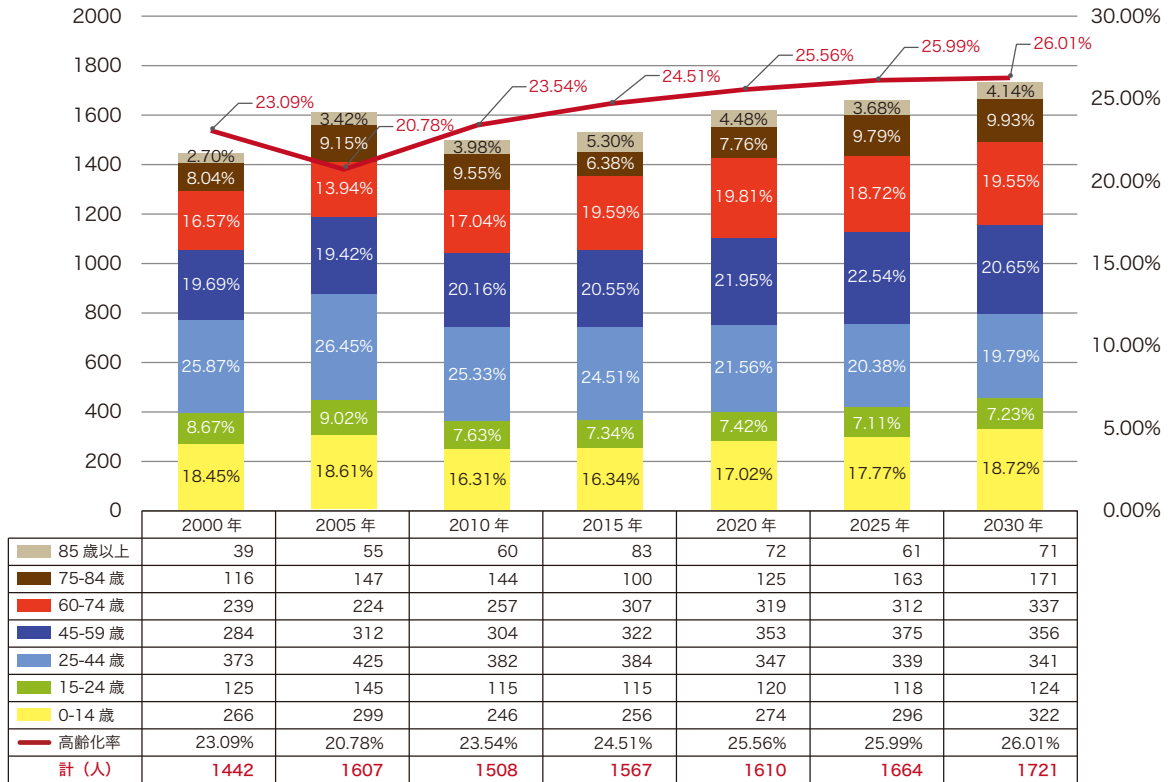
どうやまの里

アクションプログラム(活動計画)

- A 東河地区協議会の事務体制の充実、事務所の適正管理
- B 「どうやまの里」の適正管理
- C ビーグル支援の各種補助制度の導入
- D 地区民向け情報公開活動の可視化

04 資料編

東河地域 人口構成・高齢化率予想



東河地区人口の推移調べ

※H40-H7 朝来市の数値は 10/1 現在国勢調査による

			S40.3	S50.3	S60.3	H7.3	H17.3	H22.3	H27.3	H30.3
東河地区	人 口 (人)	白井	258	254	248	245	214	201	196	181
		宮	219	201	184	170	141	144	121	107
		久田和	232	197	192	176	163	145	140	133
		東和田	102	102	89	69	65	64	59	63
		中	172	159	169	185	178	163	170	183
		野村	239	221	211	209	256	237	227	222
		岡田	179	167	188	200	222	227	227	230
		弥生が丘 1					210	225	281	296
		弥生が丘 2					225	217	228	236
		計	1,401	1,301	1,281	1,254	1,674	1,623	1,649	1,651
	世帯数 (世帯)	白井	56	56	56	58	62	62	62	63
		宮	45	43	45	47	52	53	49	46
		久田和	49	49	48	46	49	50	50	49
		東和田	24	24	23	19	21	22	22	24
		中	39	36	39	42	44	48	57	58
		野村	49	49	55	52	69	71	75	75
		岡田	36	38	41	49	58	68	73	75
		弥生が丘 1					62	66	89	96
		弥生が丘 2					77	78	84	84
		計	298	295	307	313	494	518	561	570
	高齢化率 (%)	白井					29.44	32.84	33.67	32.04
		宮					35.46	38.89	38.02	40.19
		久田和					32.52	36.55	35.71	36.84
		東和田					30.77	34.38	42.37	38.10
		中					22.47	26.38	28.24	28.42
		野村					23.83	27.43	28.19	28.38
		岡田					19.37	18.50	23.35	26.09
		弥生が丘 1					1.90	4.00	6.76	9.46
		弥生が丘 2					3.56	3.23	4.39	5.93
		計					20.43	22.37	23.10	23.68
和田山町	人口		16,838	16,163	16,948	17,160	17,175	16,808	16,235	15,767
	世帯数		3,765	4,030	4,629	5,017	5,751	5,959	6,166	6,243
朝来市	人口		43,637	37,763	37,149	36,766	35,479	33,574	31,668	30,848
	世帯数		9,970	9,870	10,431	11,411	12,083	12,233	12,306	12,326

東河小学校児童数調

※糸井小 (S48 創立) 除く ※いづれも 5/1 現在

	S40	S50	S60	H7	H17	H22	H27	H30
東河小	143	88	110	87	119	116	99	122
和田山町	1,483	1,294	1,543	1,317	1,029	947	847	828
朝来市	4,420	3,153	3,186	2,689	2,092	1,878	1,528	1,483

東河地区「まちづくり計画」アンケート調査

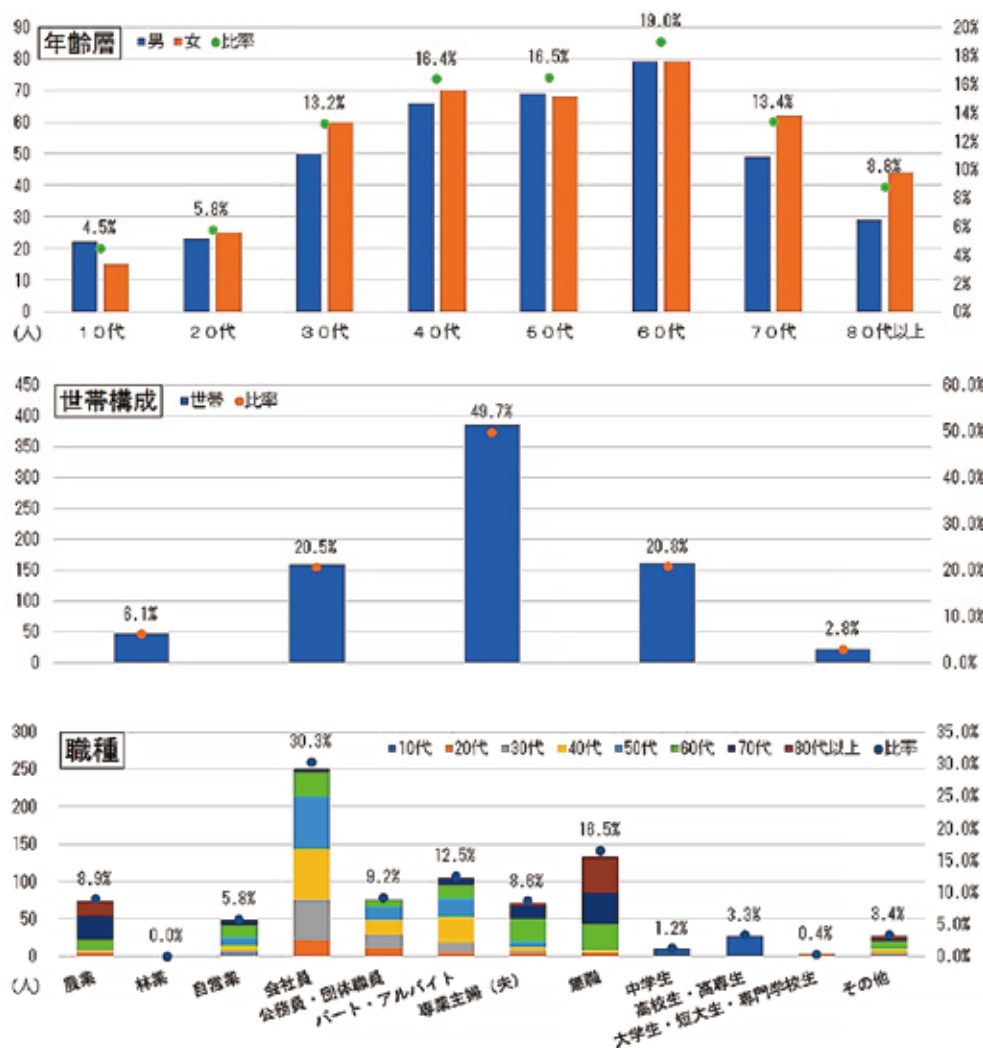
ここでは、東河地区のまちづくりに向けた、地域住民の意向把握を目的とした「まちづくり計画」のアンケート調査結果の概要について述べます。

(1) アンケート調査の概要

調査時期	平成30年9月1日～9月30日	
調査対象	・ 1, 330人 ・ 東河地区に住む15歳以上の方全員（平成30年4月1日時点）	
回収率	・ 区長を通じての直接配布及び回収	回収有効率 ・ 97%（840通／864通）
有効率	・ 65%（864通／1, 330通）	・ 無効は白紙や男性女性ともに○など24通
主な調査内容	・ 回答者の属性・東河地域の将来像・他地域との交流・今後の居住意向 ・ 東河地区の自慢・日常生活での不安、困っている事 ・ 地域、区が行う活動や事業の満足度と今後の重要度 ・ その他のご意見、ご提案	

(2) 回答者の属性

※以下設問のデータは、空白回答があった為、100%にはなっていません



(3) アンケート調査結果の要旨

①住民の居住意向

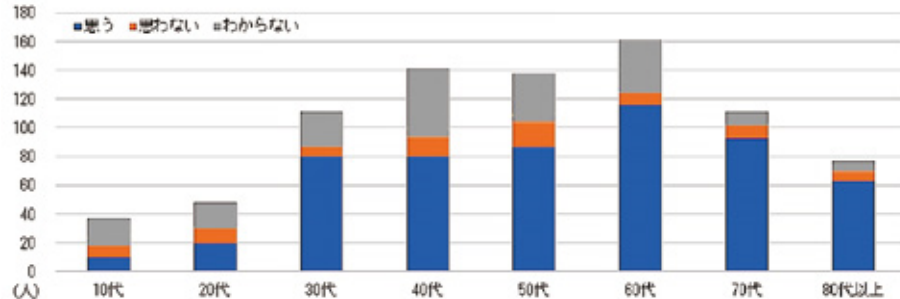
(a)回答者自身の居住意向

◇66.7%の住民が、今後も東河地区に住みたいと考えています。

◇30代以上の概ね6～8割の住民が、今後も東河地区に住みたいと考えています。

◇10代の3割、20代の4割の住民が、今後も東河地区に住みたいと考えています。

◆10代の5割、20代の概ね4割の住民が、「わからない」と答えています。



■自由記述欄には、買い物・通院・子育て等に不便さを感じるとの意見が多くありました。

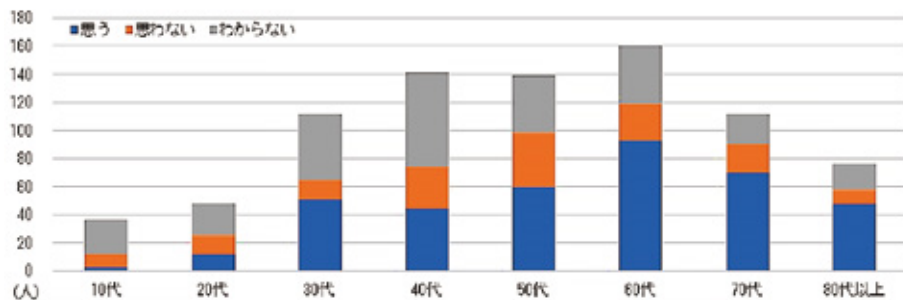
(b)子・孫への居住希望

◇45.6%の住民が、子・孫に東河地区に住んで欲しいと考えています。

◇30～50代の住民の概ね4割が、子・孫に東河地区に住んで欲しいと考えています。

◇60代以上の住民の6割が、子・孫に東河地区に住んで欲しいと考えています。

◆10代の概ね7割、20～40代の概ね5割の住民が、「わからない」と答えています。

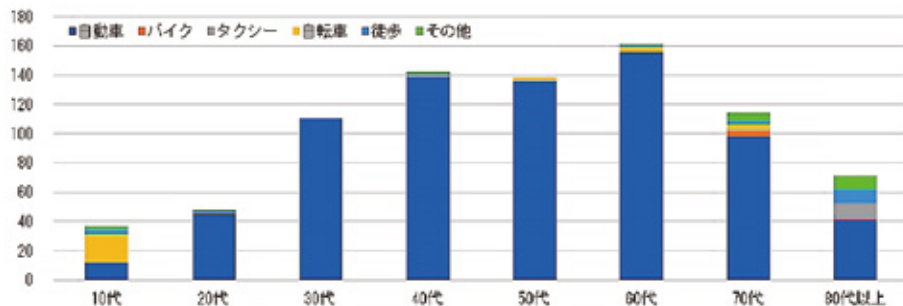


■自由記述欄には、働く場所が少なく、就職やUターンに不安があるとの声があります。

②日常的な交通手段

◇88.6%の住民が、自家用車を利用しています。

◆4.3%の住民が、タクシー・バス等を利用しています。



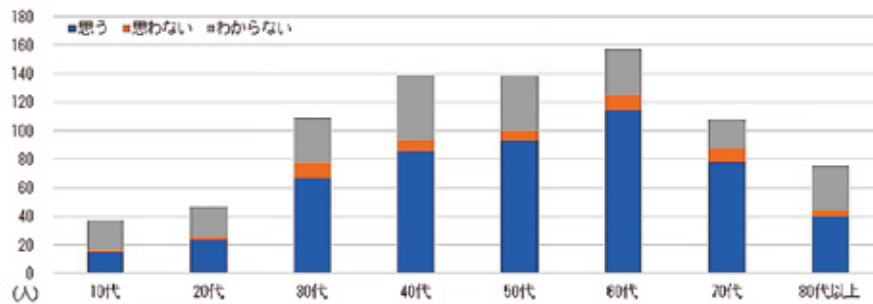
■自由記述欄には、多くの住民が、将来の地域交通システムへの不安を上げています。

また、バスの増便や乗合タクシー等による移動手段の確保を希望する声があります。

③地域行政への女性・若者の声の反映

◇62.0%の住民が、地域行政への女性・若者の声の反映を望んでいます。

◇年齢が上がるにつれて、地域行政への女性・若者の声の反映を望んでいます。

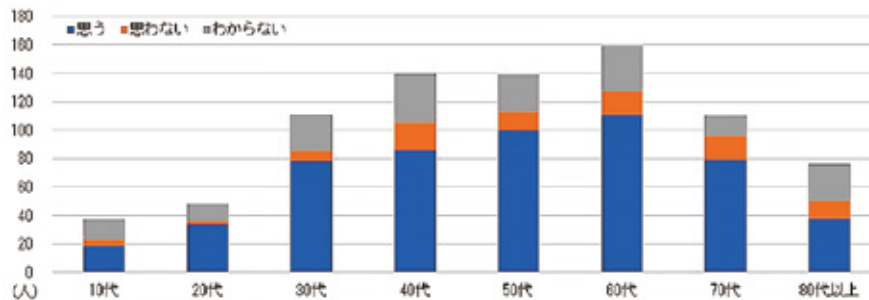


■自由記述欄の女性・若者の声として、子育て・医療・備災・就職・地域行事等に対する要望がありました。

④新たな定住者(移住者)の受け入れ

◇65.2%の住民が、新たな定住者（移住者）の受け入れを望んでいます。

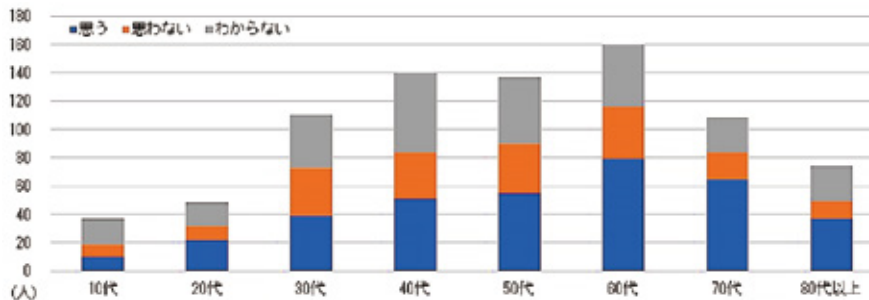
◇各年齢層とも、新たな定住者（移住者）の受け入れを望んでいます。



⑤他地域との交流

◇43.0%の住民が、他地域との交流を望んでいます。

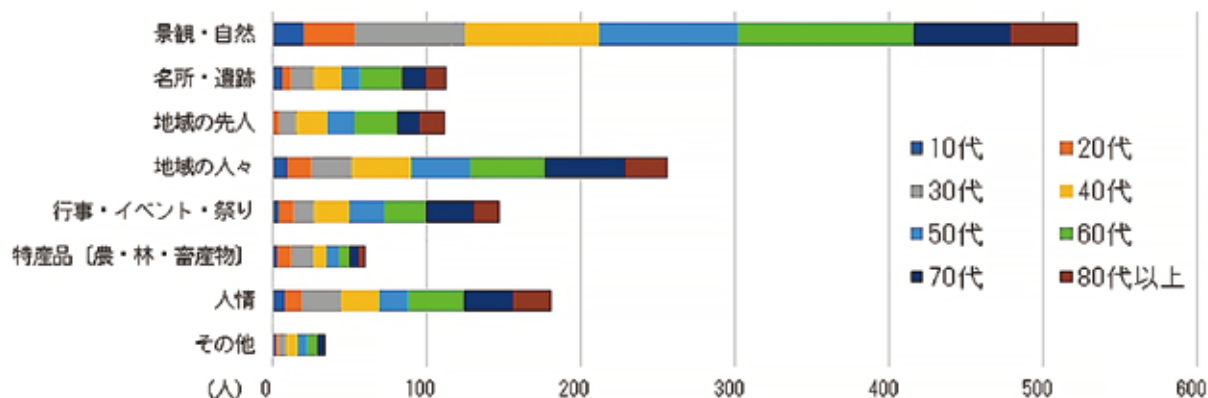
◇60代以上の概ね5～6割の住民が、他地域との交流を望んでいます。



■自由記述欄には、他地域との交流を活発にしたいとの声があります。

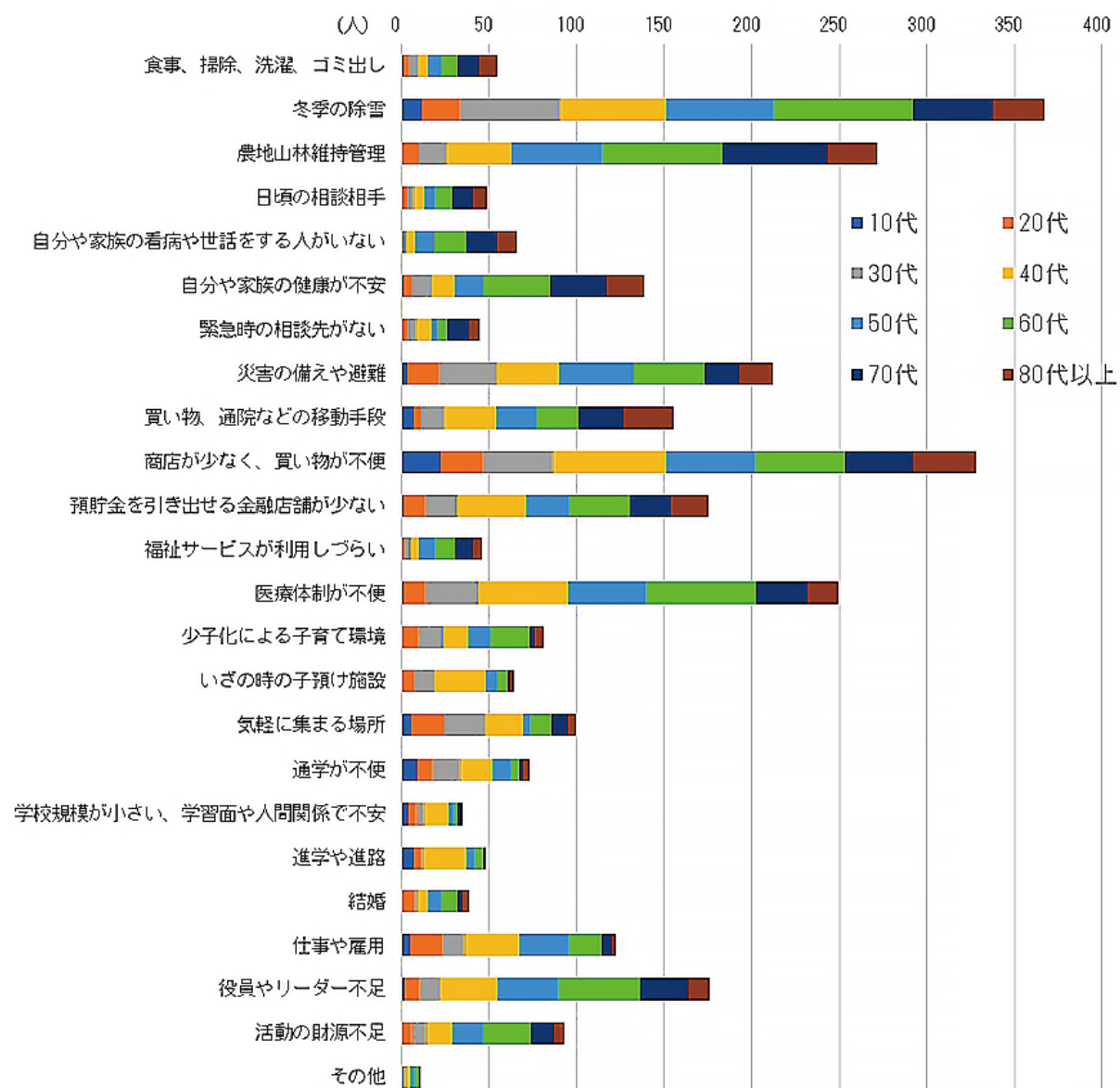
⑥東河地区の誇り

一番の誇りは、東河地区の景観・自然と答えている住民が多くありました。二番は地域の人々、三番が人情となっています。東河地区の豊かな自然と人柄は、来訪者の誰もが感じる所です。



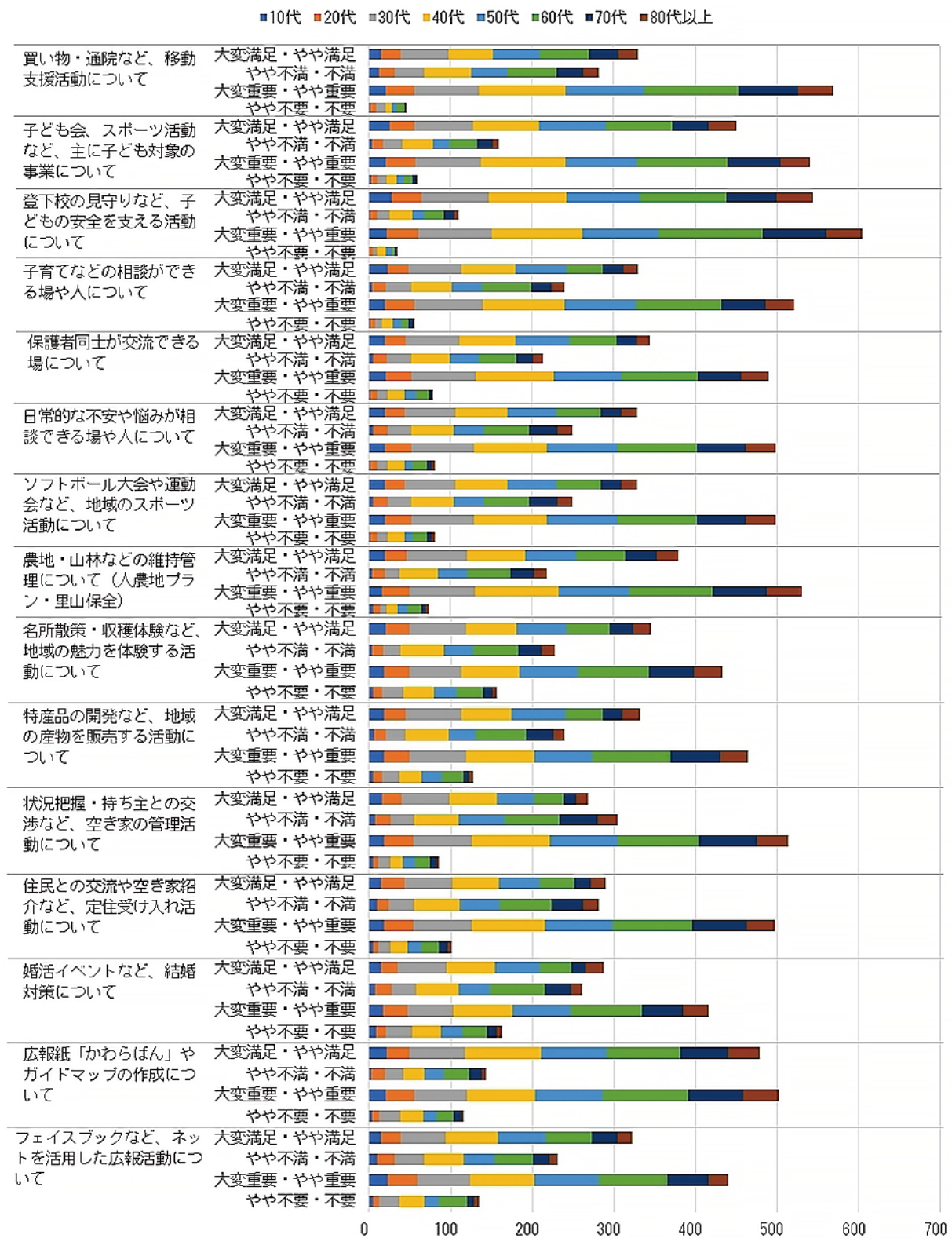
⑦常生活の不安・困りごと

日常生活の不安・困り事は、一番が冬の除雪、二番が買い物・通院などの移動手段（交通手段）で、三番が農地・山林などの維持・管理となっています。これらは、中山間地に共通する課題と考えます。また、医療・備災など、地域では解決できない課題も、上位を占めています。さらに、地域組織の問題点も上がっています。



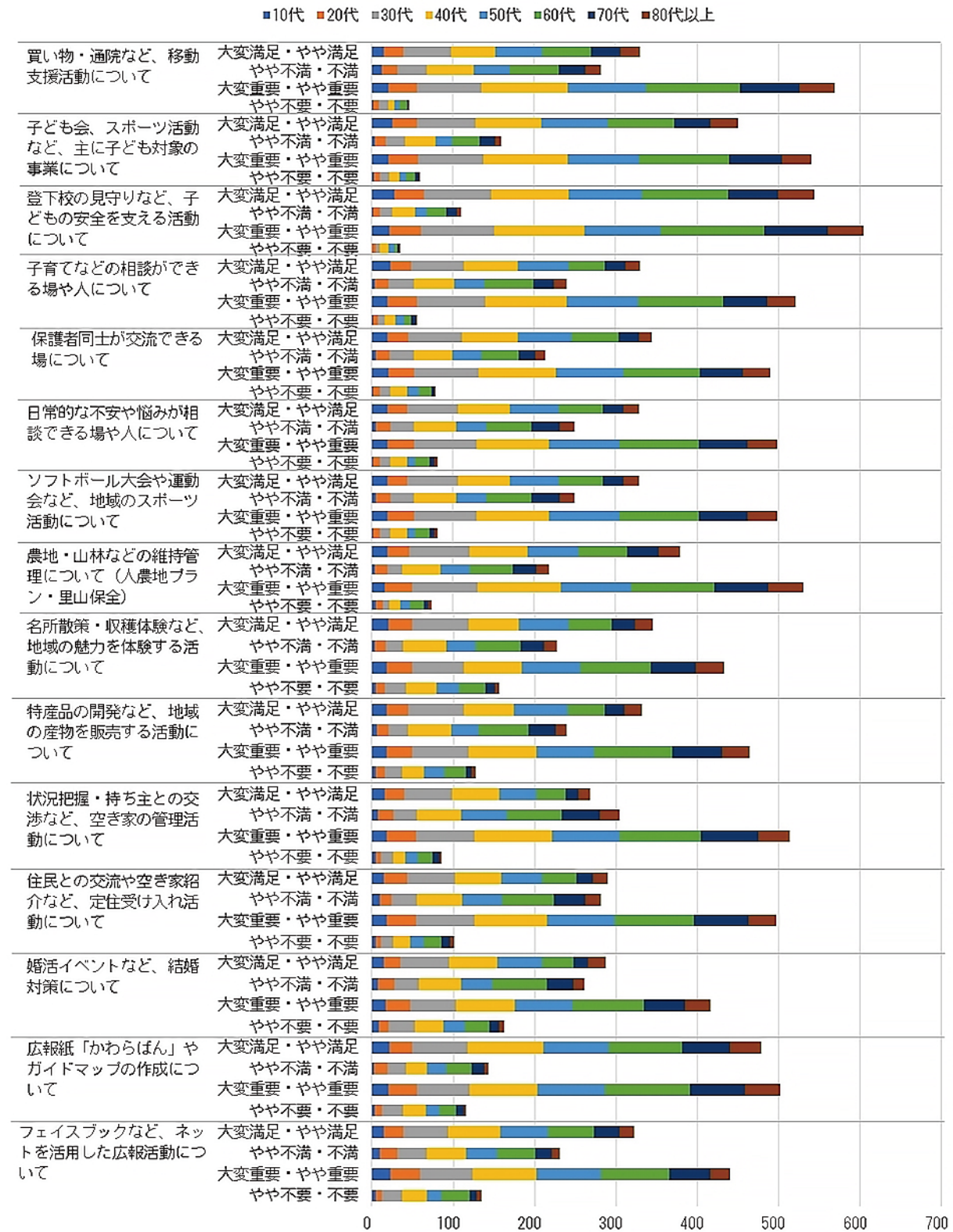
地域・区が行う活動・事業の満足度・重要度アンケート結果

No.16 ~ No.30



地域・区が行う活動・事業の満足度・重要度アンケート結果

No.16 ~ No.30



あ と が き

「第二次東河地区まちづくり計画」が策定され、心からお喜び申し上げます。

当計画策定には、15歳以上の地区民向け「まちづくりアンケート調査」の実施、地区民代表からなる「まちづくり計画検討委員会」を5回実施するなど、多くの方のご支援ご指導を賜り策定されたもので、真に意義深いことと存じますとともに、ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

今回の計画策定では、今後10年間の夢と希望のあるまちづくりの方向性を「山並み映ゆる 交流文化の里 東河」と定め、基本的な施策をまとめました。

地区民の生活意識や価値観も多様化し、地区民要望も益々複雑化する中、新しい視点からの取り組みも盛り込み、本地区が持つ独自性と資源を活用する、魅力ある「東河地区まちづくり計画」が策定できたと安堵しています。

今後は、この計画に基づき地区民一丸となり、東河地区の活性化が成し遂げられることをお祈りします。

最後になりましたが、計画策定にご尽力いただきました、検討委員会の皆様、東河地区協議会事務局の皆様には心から感謝申し上げます。

平成31年3月

東河地区まちづくり検討委員会
委員長 畠山 義紀



東河地区 まちづくり計画

平成31年3月

東河地区協議会